

多岐にわたる環境へのニーズに応え 50年間変わらない「信頼」を確保

i-focus

創立50周年を迎えた総合環境ソリューション企業のテルム取締役社長・後藤元晴氏に、今後の環境ビジネスと社会とのかかわりについて聞いた。

テルム取締役社長 後藤元晴氏



— 創立から50年間のテルムの企業姿勢について

テルムは、1961年の創立以来、東芝グループの環境関連事業の一翼を担ってきました。当初は東芝の工場内でリサイクル事業を中心に大きな役割を担ってきましたが、この50年間で環境に対する見方が変わってきました。昔は公害や不法投棄に対する関心が高かったですが、近年は希少金属のリサイクルなどに視点が変わっています。また環境問題が「生物多様性」や「低炭素化への取り組み」など一般にも身近な問題となってきています。こうした環境へのニーズが多岐にわたってきた

ため、そのニーズに応えることで事業が拡大し、的確にニーズに応えることで「信頼」を確保してきたのです。これが50年間変わらないスタンスではないでしょうか。

— 中心事業である3つの環境ソリューションについて

1つ目は土壌・地下水の浄化や環境関連分析などの環境エンジニアリング事業です。大気や排水などの環境分析や労働安全衛生法に基づく作業環境測定、製品含有の有害化学物質の精密分析などを最新の技術と経験をもとに幅広い分析ソリューションを提供しています。2つ目は資源リサイクルを中心とする環境リサイクル事業で、家電やパソコン、OA機器などのリサイクルをはじめ、半導体の梱包材などのリユースにも取り組んでいます。3つ目はマネジメントシステムの構築支援などを行う環境マネジメント事業ですが、東芝グループの事業拠点を中心に排出物の管理や資源リサイクルなど環境管理全般の支援やコンサルティングを行う一方、ISO14001や9001、OHSAS18001などの認証も行っ



ています。

— 新しい事業活動について

新たに市場に出ている材料、たとえば、燃料電池等のリサイクルを製造側と一緒に研究開発しているところです。どうやって有用な資源を取り出すか、リサイクルプロセ

スをどのように構築していくか、といった取り組みをしています。また水質分析センターを設けて当社のノウハウや機材を活かしてグループ以外の一般の企業にも幅広く活用できるようにしています。今夏には分析結果の迅速な報告、過去の結果履

歴（トレンドデータ）や最新の環境規制の動向情報を提供するサービスを始める予定です。また海外展開については進出国の法律のもとで何ができるか、当社が蓄積してきた人材や技術、ノウハウを活かせるような検討をしています。

● 全体最適が今後の目標

— 今後の目指すべき姿について

一般的に「動脈側」と呼ばれるモノづくり企業の目的は、いいデザインだったり、高性能だったり消費者にとって良い製品を開発するのが中心で、リサイクルや解体技術まではなかなか手が回りません。一方、当社のような「静脈側」の企業は出

った製品をリサイクルするためのノウハウや解体する技術に取り組んでいます。そのため「動脈側」と「静脈側」の境をなくすことで地球にやさしい、消費者にとっても有効な「全体最適」が実現できるのではないのでしょうか。当社は、東芝グループの一員で、「静脈側」の企業であるにもかかわらず、「動脈

側」と共同して取り組むことが可能な立場にいますので、こうした「全体最適」を実行することが可能なのです。

こうした「全体最適」の実現が企業の枠を超えて展開することが、今後の経済・社会にとって重要なのではないのでしょうか。



Leader & Innovation
賢者の選択
<http://kenja.jp>

テルム：放送予定日

6/24(日)	6/25(月)
10:00~10:55 BS-11(全国放送)	22:00~22:55 サンテレビ(兵庫・大阪)
12:00~12:55 日経CNBC(全国放送)	

BS11

【BS放送】毎週日曜/10:00~10:55

日経CNBC

【CS放送】毎週日曜/12:00~12:55

SUN-TV

【地上波(兵庫・大阪)】毎週月曜/22:00~22:55